

スマホ星人  
(年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子  
amhotm@gmail.com <https://docl.jp>



2019/05/05

世界のあちこちでは武器で戦闘やテロ犯罪が起きている。日本に近い北朝鮮は危険な国で、中国は海域を占領し始めている。世界情勢は不安極まりない。

芽吹きの新緑がまぶしく、花々が咲き誇っている大寺院の山門にある仁王像の前で、高齢の女性三人が、大きな声でおしゃべりしている。

「娘がうな重とうな井では鰻が違うって言ってたわ」

「そうよねー、値段が違うんだしー」

と三人は鰻議論に夢中。日本は平和？…。日本は、今、平和。寺院に向かった平和な参道を歩き続ける。

2019/05/20

バスが通る主要道路で、タウンバスが横断歩道で停止。歩道を渡ってきたのは一人の中年女性。左手にスマホを握り、画面をじっと見つめ右手で夢中に操作している。停まってくれたバスの前を素通りしてバスに「ありがとう」もせず、急いで渡ることなく、ご迷惑をかけたことにも脇目もふらず、スマホに捉われて道路を渡る。目的地はどこか知っているのだろうか。

別の狭い路地では黒いスーツに黒いザックを背負ったビジネスマンの若者がスマホを見ながら駅方向に歩いている。スマホ星人だらけの日本、いや世界を案ずる。で、次になすべきこと、目的地に向かって姿勢よく、周りを眺めながら、前に歩き続ける。

外で目にする人々がそろってスマホ片手に画面をみつめている。便利な機能が盛りだくさんのようで、待っているバスが今どの地点か教えてくれるそうだ。ナビで知ってもバスが到着するまで待つことには変わりはない。つぎつぎ情報が入って知識が増えてもバスの運転手が変わるわけでもないし、スピードが上がるわけでもない。バスが来るのはバスの時刻表通りで、昔通り。

2019/08/13

終戦記念日が近づくと、TVで特集が組まれ、NHKだけでなく民放でも放映される。70年前の浮浪児と呼んだ、親を亡くした孤児の映像に目を凝らした途端、CMに画面が変わった。録画でニュースやドラマを見る習慣があり、早送りと30秒スキップのボタンを何度も押すが、画面は変わらない。リモコンが新しく変わってから電池を取り換えていないことに気づき、単3、2個の電池と取り換える。ボタンを押したが機能しない。そこで、ようやく録画の画面ではなく、今放映していると気づき、録画をする。録画をしても見る事がなく、録画された番組はたまる一方だ。それでも知りたい欲求で録画する。原発のように重要な特集を見て知ってもTVの画面はすぐに忘れてしまう。映像は映像でしかないと今、ここへの観察となすべきことの行動の重みを再確認する。

2019/09/10

2週間前にホームセンターで買ったプチチャックビニール袋のサイズが違っていたので交換に行った。

サービスカウンターに並ぶと前の年配の婦人が「交換品なので時間がかかるわよ」とご親切に教えてくれた。3分もしないうちに、別のスタッフが来て対応してくれた。店員さんは、PCの作業が手間取り他のスタッフに相談して二人で画面を前に話し合っている。ようやく作業がすんで、100円が戻って、98円を払って品物は交換された。はなから98円と知っていたら交換しなかったのにと、自分の観察不足が情けなかった。

この10分間、98円の商品で店員さんたち、後に並んだ人、車を運転した夫、ご迷惑かけたことが大きい。ともかく、交換の目的は果たせた。ときどき失敗するのが人間だ。次のなすべきことが待っているのが有り難い。やれやれ。

2019/11/28

この地域で一週間も雨降りが続くのは珍しいこと。ウォーキングも小雨のときにするしかない。陽の光がないと部屋の中が暗く、とみに弱くなってきた目が働かずよく見えない。台所仕事に眼鏡はかけない。長年の経験と勘で料理もする。

だしとりでペットボトルの水を鍋に入れようと、キャップを取ったら、指先の動きも鈍さが出てきて下に落とす。拾う前に鍋に水を入れて、足元にある筈のキャップを捜したが、見当たらない。おかしい、確かに下に落ちて、ころがった音は聞こえなかったから、足元周辺にある筈だが、ない。顔を床に近づけて探すが見えない。曲げた腰を伸ばしながら、ふと目に入った白い小さなキャップはレンジ下の深い引き出し把手の上にちょこんと乗っていた。キャップさんのユーモアに「おつかれさん」をいただいた。


2019/12/27

年取るのは悪いことでも、若いのがいいでもない。自然なこと。

2020/01/24

灰褐色のショートヘアのせいかわ顔が小さくて、すらーとした背の高い年配の女性が、高齢者会館の玄関前の庭を掃いている。きらきら光るラメの縞模様のーフコート（羽織）を羽織って、長く細い脚にぴたっとした黒のパンツを身に着けている。手に箒とちりとりを持って、腰をかがめ軽やかにごみを拾っている。それから目的地近くの寺院参道にさしかかると、向こうから同じように灰褐色のセミロングヘアに、真っ白のダウンコートを着た60代らしき女性が、白い日本犬とすたすたと歩いてくる。白と薄化粧の口紅の紅色が美しい。その近くをウォーキングしている私だが、外見と違って今朝はしんどく、年配女性たちの若々しさと美しさを見習いたいというらやましく思った。そして歩く。

(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)